

中等教育研究開発室年報 第33号 (2020年3月31日発行) 別冊電子版
2019年度 授業実践事例

芸術科 (音楽) 中学校第1学年

鑑賞 (リコーダーの曲, リトルネツロ形式), 同声2部合唱 (男女混合パートによる)

授業者 増井 知世子

(校内研究授業)

広島大学附属中・高等学校

中学校 音楽科学習指導案

指導者 増井知世子

日時	令和元年6月26日(水) 第2限(9:40~10:30)
場所	第2音楽室
学年・組	中学校1年B組44人(男子23人, 女子21人)
題目	1.鑑賞(リコーダーの曲, リトルネッコ形式) 2.同声2部合唱(男女混合パートによる)
目標	1.リコーダーとオーケストラの掛け合いを楽しむことができる。 2.クラスの合唱をより良いものにしようという意識をもち, 男女混合パートの練習を通して, 意見交流しながら合唱を仕上げていく方法を身につける。
教材	1.「リコーダー協奏曲へ長調 RV433<海の嵐>第1楽章(ヴィヴァルディ作曲) 2.「unlimited」(桑原永江 作詞, 若松 欽 作曲)

指導計画

- 1.について 1時間(本時)
- 2.について (全5時間)
各パートのメロディメロディの把握…1時間
パート練習と全体合わせ…2時間
全体練習と録音…1時間
録音の聴取と改善…1時間(本時)

授業について

中1の授業では, 50分全部を歌唱に充てることもあるが, 歌唱とアルトリコーダーを組み合わせることが多く, 時には歌唱と短めの鑑賞を組み合わせることもある。本時は鑑賞と歌唱の授業である。

中1の鑑賞では, イメージがわかりやすい, 標題のついた音楽を糸口にして, その曲から何を聴き取らせたいかを明確にして, できるだけコンパクトに提示するようにしている。本時の教材では, リコーダーとオーケストラの掛け合いの面白さに焦点をあてた。

この時期における, 男女混合の同声2部合唱の取り組みは, 2学期からソプラノ, アルト, 男声による混声3部で自主的なパート練習を進めていくうえで有効であると考え。ただ, 今の時期は男子の変声が進行中で, しかも個人差があるため, 同じパート内の男子でも1オクターブ違いで歌っている状況も見られ, 声をそろえることに対する指導上のむずかしさも感じている。

鑑賞においても合唱においても, 一人一人が思考しながら意欲的に音楽学習に取り組むことをめざしたいと考えている。

- 題目**
- 1.リコーダーとオーケストラの掛け合いを楽しもう。
 - 2.より良い合唱を追求しよう。

本時の学習目標

- 1.リコーダーとオーケストラの掛け合いを楽しむことができる。
- 2.前時の録音から課題を見出し, 合唱の仕上げにつなげることができる。

本時の評価規準（観点/方法）

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。/観察	音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。 /ワークシート	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身につけ、歌唱で表している。/演奏聴取	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。/ワークシート

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
<p><導入></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習目標の確認 (2分) <p><展開1：鑑賞></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回目の鑑賞 ・2回目の鑑賞 (15分) <p><展開2：合唱></p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の合唱録音の聴取 (5分) ・良い点や課題についての考察 (5分) ・パート練習での合唱の深め (15分) <p><まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・合唱と録音 (8分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・短い鑑賞と合唱の仕上げをすることを教える。 ・聴取のポイントを確認する。 ・聴取のポイントに気をつけて1回目の鑑賞をする。 ・確認のために2回目の鑑賞をする。 ・ワークシートに記入する。 ・前時の合唱の録音を聴きながら、ワークシートの裏面に気づきを書かせる。 ・気づきを発表する。 ・課題をふまえてパート練習をする。 ・合唱をする。 ・(時間があれば録音を聴く。) ・ワークシートを提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞のワークシートは配布しておく。 ・聴取のポイントを板書を活用して示す。 ・<海の嵐>という題名に簡単に触れる。 ・題名と曲との関係については、感想があれば書く程度にとどめる。 ・聴取のポイントとして、“ことば” “強弱の幅” “ハーモニー”を挙げる。 ・発表内容を板書する。 ・生徒の発表内容に補足があれば行う。 ・合唱を深めるための練習ができていないか確認する。 ・録音をする。 ・本時の評価を行い、ワークシートを回収する。
準備物：教科書「中学生の音楽1」、CD、ワークシート、掲示用カード、録音機		

実践上の留意点

(1) 授業説明

本題目の授業は、鑑賞と合唱の2部構成である。中1の授業では、1時間の中で歌唱とアルトリコーダー、歌唱と鑑賞を組み合わせることが多い。授業にあたり留意した点は以下の通りである。

- ① 中1の鑑賞では、イメージがわかりやすい、標題のついた音楽を糸口にして、その曲から何を聴き取らせたいかを明確にして、できるだけわかりやすい形で課題設定をする。
本楽曲では、リコーダーのみの部分、オーケストラのみの部分、リコーダーとオーケストラの部分の聴き取りに焦点を当てた。
- ② 合唱のパート練習を自主的に進めることができるように、リーダーを育成するとともに、互いに協力するよう日頃から指導を行っている。学習の初期には、パート練習のマニュアルを提示した。
- ③ 中1の1学期における男子の変声の度合いには個人差が見られる。声をぴったりと揃えて歌わせる指導は難しいが、変声は成長の一過程であることを説明して安心感をもたせるようにしている。

(2) 研究協議

- ・生徒たちが意欲的に学習に取り組んでいた。合唱では強弱の幅を考え、表現にメリハリをつけるための指導の工夫も見られた。
- ・鑑賞では、授業者が＜オーケストラのみの部分＞としていた箇所の一部に、音は小さいがリコーダーの音も入っていたことが指摘された。より綿密な教材研究が必要であった。

